

発行日：2026年7月6日（月） / 大会：AMJRF National Championship 2026（第7回） 2026年6月17～20日

Japanese Children's Society DD Team 大会全記録 金13・銀16・銅14—メダル計43個、遠征メンバー14名全員が表彰台

ニューヨーク育英学園のダブルダッチ／なわとびチーム「Japanese Children's Society (JCS)」が、ニューヨーク州バッファローで開催されたAMJRF National Championship 2026において過去最多のメダル43個を獲得。遠征した14名全員が金・銀・銅いずれかのメダルを持ち帰った。

ニューヨーク育英学園（所在地：ニューヨーク市）が運営するなわとびクラブチーム「Japanese Children's Society (JCS)」は、2026年6月17日（火）～20日（土）にニューヨーク州バッファローにて開催された **AMJRF National Championship 2026（第7回全米なわとび選手権）**において、**金メダル13個・銀メダル16個・銅メダル14個の計43個**を獲得した。全米各地から約30チーム・900名を超える選手（前年の約2.5倍）が参加した本大会で、JCSは複数の年齢カテゴリーにわたり上位入賞を果たし、**遠征した14名全員が表彰台に立つ**という成果を収めた。



AMJRF Nationals 2026 で獲得したメダルとJCS遠征メンバー（ニューヨーク州バッファロー、2026年6月）

大会正式名称

AMJRF National Championship 2026
（第7回全米なわとび選手権）

開催地・期間

Buffalo State University, Buffalo,
NY
2026年6月17日（火）～20日
（土）
予選：6/17～19 / 決勝：6/20

JCS

Japanese Children's Society
（JCS）
ニューヨーク育英学園 所属
遠征メンバー：14名



合計 43個のメダル — 学園史上最多

AMJRF 大会について

American Jump Rope Federation (AMJRF) は2016年に設立された、国際跳び縄連合 (IJRU) 認定の米国公式なわとび競技連盟。コロラド州ボルダーを拠点とする501(c)(3)非営利団体であり、全米各地のクラブチームが加盟している。

第7回となる2026年大会は、ニューヨーク州バッファローの Buffalo State University で開催。全米各地から約30チーム・900名を超える選手（学園調べ・前年の約2.5倍）が参加し、地域経済への波及効果は100万ドル超と試算される 大規模な大会となった。

競技は予選（6月17～19日）と決勝・グランド（6月20日）に分かれ、年齢カテゴリー（11歳以下・12～13歳・14～15歳・16～18歳・19歳以上・30歳以上・50歳以上）ごとにダブルダッチ（DD）・シングルロープ（SR）の各種目で争われる。JCSが獲得したメダルは年齢部門別選手権（Age Division Championship）の成績によるもの。



AMJRF National Championship 2026
2026年6月17～20日 Buffalo, NY

地元メディアの取り上げ

今年の大会は地元バッファローの主要テレビ・ラジオ局で事前から報道され、全米規模のスポーツイベントとして注目を集めた。ニューヨーク州バッファローでは2026年度のシグネチャーイベントとして誘致に成功しており、参加者750名超・ホテル宿泊1,250泊・経済波及効果100万ドル超が見込まれると報じられた。

また大会期間中の2026年6月19日（木）には、Buffalo Juneteenth Festival（地域祭）にてなわとびのデモンストレーションが行われ、地域コミュニティへの競技普及にも貢献した。

WKBW-TV — Buffalo ABC 系列 / ニュース記事

7th annual American Jump Rope National Championship brings competitors from 28 states to Buffalo ↗

WBEN / Audacy — Buffalo ラジオ・ニュース / ニュース記事

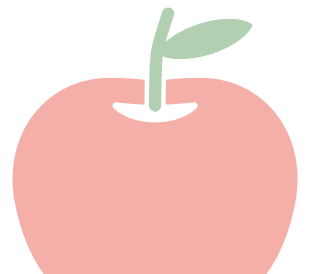
National jump rope competition coming to Buffalo in 2026 ↗

WIVB-TV — Buffalo CBS 系列 / ニュース映像

Locals gather for jump rope community events ↗

WGRZ-TV — Buffalo NBC 系列 / 動画ニュース

U.S. Jump Rope Federation demonstration at Buffalo Juneteenth festival ↗



略称	種目名（英語）	内容
◆ Double Dutch（ダブルダッチ）種目 — 2本の縄を交差して回す		
DDSS	Double Dutch Speed Sprint	ターナー2名+ジャンパー1名の3人1チーム。30秒間の跳躍回数で競う。
DDSR	Double Dutch Speed Relay	4人1チームのリレー方式。ジャンパーを替えながら合計跳躍回数を競う。
DDC	DD Challenge (1×30)	ターナー2名+ジャンパー1名。30秒間の跳躍回数を3試技合計で競う。
DDPF	Double Dutch Pair Freestyle	固定ではなく、4名で役割を交換しながら実施するフリースタイル種目。演技の難度・表現・完成度を審判が採点する。
DDSF	Double Dutch Single Freestyle	固定ではなく、3名で役割を交換しながら実施するフリースタイル種目。演技の難度・表現・完成度を審判が採点する。
◆ Single Rope（シングルロープ）種目 — 1本の縄を使う		
SRSS	Single Rope Speed Sprint	個人が1本の縄を自分で回し、30秒間の跳躍回数を競う。
SRDR	SR Double Unders Relay	2人1チームで30秒間、二重跳びを交互にこなすリレー競技。跳んだ回数の合計で競う。
SRSE	Single Rope Speed Endurance	個人が3分間、持続的に跳び続けた回数を競う持久力種目。
SRSR	Single Rope Speed Relay	複数名がバトンタッチ形式でスピードを競うリレー種目。30秒×4名。
SRIF	SR Individual Freestyle	個人短縄演技。難度・表現・完成度を審判が採点するフリースタイル種目。
SRPF	SR Pair Freestyle	2名で行う短縄フリースタイル演技。難度・表現・完成度を採点。2人が揃った動きをしているかなども審査対象。
SR TU	Single Rope Triple Unders	三重跳びの跳躍回数や難度を競う種目。

メダル成績リスト

種目	カテゴリ	順位	Entry #	区分	メダル数
🥇 金メダル（全13個）					
DDSS	Male 12-13	🥇 1位	#1151	Shimato Ishikawa・Kaishin Lin・Sohta Nakajima	金 3個
DDPF	Male 14-15	🥇 1位	#1166	Shimato Ishikawa・Kaishin Lin・Osuke Naito・Sohta Nakajima	金 4個
SRDR	Male 12-13	🥇 1位	#1140	Kaishin Lin・Sohta Nakajima	金 2個
SRSR	Male 14-15	🥇 1位	#1136	Shimato Ishikawa・Kaishin Lin・Osuke Naito・Sohta Nakajima	金 4個
🥈 銀メダル（全16個）					
DDSS	Male 12-13	🥈 2位	#1152	Hiroto Kitayama・Kaito Minami・Ryotaro Mine	銀 3個
DDSS	Mixed 14-15	🥈 2位	#1444	Akari Amemiya・Daichi Kitayama・Aoi Minami	銀 3個
DDSS	Male 19+	🥈 2位	#1670	Yuki Fukai・Daimu Ishikawa・Yusuke Tanno	銀 3個
DDSR	Mixed 12-13	🥈 2位	#1198	Hiroto Kitayama・Kaito Minami・Ryotaro Mine・Yuri Tanno	銀 4個
DDSF	Male 19+	🥈 2位	#1676	Yuki Fukai・Daimu Ishikawa・Yusuke Tanno	銀 3個
🥉 銅メダル（全14個）					
DDSR	Male 14-15	🥉 3位	#1147	Shimato Ishikawa・Kaishin Lin・Osuke Naito・Sohta Nakajima	銅 4個
SRDR	Male 12-13	🥉 3位※	#1141	Shimato Ishikawa・Hiroto Kitayama	銅 2個
SRDR	Mixed 12-13	🥉 3T位	#1190	Osuke Naito・Yuri Tanno	銅 2個
SRSS	Male 12-13	🥉 3T位	#336	Hiroto Kitayama（個人）	銅 1個

SRSS	Male 16-18	3位	#762	Daimu Ishikawa (個人)	銅 1個
SRSR	Mixed 12-13	3位	#1179	Hiroto Kitayama・Kaito Minami・Ryotaro Mine・Yuri Tanno	銅 4個

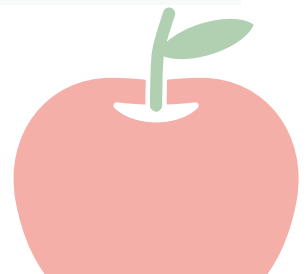
※ SRDR Male 12-13 (Entry #1141) の順位について

AMJRF公式の記録 (Verified Results) では本エントリー (Shimato Ishikawa・Hiroto Kitayama) は4位と記載されているが、表彰式では3位として銅メダルが授与されており、選手が現にメダルを保持している。この記載の相違について、現在大会運営 (AMJRF) に記録の確認を依頼中 (2026年7月5日時点)。本リリースでは表彰実績にもとづき3位・銅メダル2個として計上している。

その他の参加成績 (入賞以外・PDF確認済み)

種目	カテゴリ	順位	Entry #	備考
DDSS	Mixed 12-13	Scratch	—	JCSエントリーあり・棄権
DDSS	Mixed 30+	4位	#38	JCS チーム
DDSR	Mixed 14-15	4位	—	JCS チーム
DDSR	Male 19+	6位	#1666	JCS チーム
DDC	各カテゴリ	4~40位T	#966~969	複数エントリー (詳細 Jr DDC Final Results.pdf 参照)
DDC	Senior Mixed 16+	Scratch	—	JCS 2名 (棄権)
DDPF	Mixed 12-13	4位	#1037	JCS チーム
DDPF	Mixed 14-15	10位	#1038	JCS チーム
DDSF	Mixed 12-13	5位	—	JCS チーム
DDSF	Mixed 14-15	8位	—	JCS チーム
Team Show	全カテゴリ合同	8位	#2033	JCS (14名出場)
SRDR	Male 12-13	7位	#1142	JCS チーム
SRDR	Male 14-15	6位	#1393	JCS チーム
SRDR	Female 14-15	15T位	—	JCS チーム
SRDR	Male 19+	6位	—	JCS チーム (2名)
SRSS	Male 12-13 (個人多数)	5~10位T	—	JCS 個人複数エントリー (5位・8位・10T位ほか)
SRSS	Female 11Y	9位	—	JCS (個人戦)
SRSS	Male 30+	5~6位	—	JCS 個人複数エントリー (5位・6位)
SRSR	Mixed 19+	17位	#1831	JCS チーム
SRIF	Male 14-15	16位	—	JCS (個人戦)
SRIF	Female 11Y / 14-15	Scratch	—	JCS 2名 (棄権)
SR TU	Mixed 30+	4位	—	JCS (個人戦)

※ Scratch (棄権) はエントリーのみで出場していない種目を示す。



全米最高峰の舞台で挑戦

— AMJRF Nationals 2026 で 43個のメダル獲得 —

6月、ニューヨーク育英学園ダブルダッチチームは、ニューヨーク州バッファローで開催された アメリカ最大級のジャンプロープ・ダブルダッチ大会「AMJRF Nationals 2026」に出場した。全米各地から約30チーム、900名を超える選手が集結。今年は昨年度の約2.5倍となる参加者数となり、例年以上にハイレベルな大会となった。

遠征初日 — 移動とチェックイン、開会式

遠征初日は、移動日。無事にバッファローへ到着し、大会会場となるバッファロー大学で 受付と寮へのチェックインを済ませた。夕方には開会式に参加した。全国から集まった選手たちを目の前にし、子どもたちも「いよいよ全米大会が始まる」という実感を持った様子だった。また、他団体の規律ある行動や素早い団体行動を見て、「競技だけでなく行動面でも学ぶことが多い」と話し合う姿も見られた。

2日目 — 高校生部門・お父さん部門

大会2日目からはいよいよ競技が始まった。毎朝6時に起床し、6時半には満席になるカフェテリアで 朝食をとるといって、全国大会ならではの生活が続いた。この日は高校生部門とお父さん部門が中心だった。今回は選手の保護者であるお父さんも子どもと一緒に出場し、仕事の合間を抜いながら練習に励んだ。

全国トップレベルの選手が集まる中、高校生の石川大夢さんは自己ベストを更新し、全国トップクラスの選手23名中3位という素晴らしい成績を収めた。また、お父さんチームも 緊張しながら堂々と演技を披露し、見事メダルを獲得した。さらに、人数の関係で高校生部門に挑戦した 中学生チームも銀メダルを獲得し、幸先の良いスタートを切った。



団体対抗 Team Show の一場面。遠征メンバー14名が息を合わせて演技を披露した

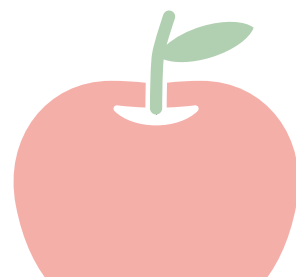


チームショーのフィニッシュ。遠征メンバーが一体となって演技を披露した

3日目 — 小・中学生、大会最大の山場

3日目は、小・中学生が中心となる大会最大の山場となった。14～15歳部門だけでも70名を超える選手が出場し、どの種目も全国トップクラスの戦いとなった。そんな中、育英チームは圧巻の活躍を見せた。ある種目では見事なワン・ツーフィニッシュを達成し、他チームを寄せ付けない演技で金メダルを獲得。ダブルダッチ競技ではほぼすべての種目でメダルを獲得するなど、育英らしい実力を発揮した。

そして何より印象的だったのは、遠征メンバー14名全員が金・銀・銅いずれかのメダルを獲得したことだった。全国大会という最高峰の舞台で全員が結果を残したことは、チーム全体にとって大きな自信となった。





団体対抗 Team Show の一場面。縄を手に会場へ入場する遠征メンバー

4日目 — フリースタイル、そしてナイアガラ

4日目はフリースタイル競技が行われた。本番直前まで演技を調整したものの、練習では成功していた技でも細かなミスが重なり、選手たちにとっては悔しさの残る一日となった。それでもダブルダッチコンテスト（DDC）では、育英らしい流れるような演技で会場を大いに盛り上げ、多くのチームや観客から高い評価を受けた。結果だけではなく、「世界に通用する演技とは何か」を学ぶ、大変価値のある一日となった。

競技終了後には、ようやく少しだけ肩の力を抜く時間も訪れた。夜にはナイアガラの滝を訪れ、ライトアップされた幻想的な景色と花火を鑑賞した。競技とは違った表情で仲間と笑い合う子どもたちの姿が見られ、この遠征の思い出に彩りを添える時間となった。

最終日 — Grand Championship 観戦と交流

大会最終日は、全年齢のトップ選手だけが出場する Grand Championship を観戦した。学年の枠を超えた世界トップレベルのスピード競技やフリースタイル、ダブルダッチの演技を間近で見た子どもたちは、「来年はあの舞台に立ちたい」「もっと練習したい」と、新たな目標を抱いた様子だった。

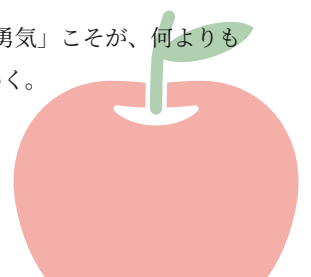
夕方には大会恒例のソーシャルイベントにも参加した。競技中はライバルだった選手たちとダンスを楽しみ、写真を撮るなど交流を深めた。言葉や地域は違っても、同じロープを通じて新しい仲間ができることも、この大会ならではの大きな魅力だった。

結び — メダルの先にあるもの

今回の遠征で育英チームが獲得したメダルは、**金13個・銀16個・銅14個の合計43個**となった。しかし、この遠征で得たものはメダルだけではなかった。

全国最高峰の舞台で挑戦し、成功を味わい、悔しさを経験し、自分たちの課題を知り、全国の仲間と交流した。その一つ一つの経験が、子どもたちを大きく成長させた。競技力はもちろん、自ら考えて行動する力、仲間を支える力、最後まで挑戦し続ける心——これらは数字では表すことのできない、この遠征で得た大きな財産となった。

43個のメダルは、一つの結果に過ぎない。子どもたちがこの遠征で手にした「世界を目指す志」と「挑戦する勇気」こそが、何よりも価値ある成果だった。この経験を胸に、育英ダブルダッチチームは、さらに高い舞台を目指して挑戦を続けていく。





ナイアガラの滝を背に、来年への決意を胸に拳を掲げる遠征メンバー

+ SPECIAL COLUMN

お父さんたちの全米挑戦 — 仕事の合間に磨いた縄跳びで、メダル4個

今大会には、JCS選手の保護者であるお父さん2名が子どもと肩を並べて出場した。Kiyotake Ishikawa さんと Daiki Naito さん——普段は仕事をこなしながら、週末や仕事の合間を縫って縄跳びの練習に励んできた。

2人は Mixed 30+ の Single Rope Double Unders Relay で **2位・銀メダル** を獲得。さらに個人種目でも、Kiyotake Ishikawa さんが Male 30+ SRSE で **3位・銅メダル**、Daiki Naito さんが Male 30+ SRSS で **3位・銅メダル** を獲得し、2人合わせて計4個のメダルをした（遠征メンバー14名の43個とは別枠）。

メダルを首に下げながら笑顔で歩く2人の姿は、子どもたちにとっても、会場全体にとっても、大会最大の「ハイライト」のひとつとなった。



銀メダルを首に下げて歩くお父さん2名（左：Daiki Naito さん、右：Kiyotake Ishikawa さん）。AMJRF 2026 National Championship / Buffalo, NY

種目	カテゴリ	順位	Entry #	区分	メダル数
銀メダル (全2個) — 保護者					
SRDR	Mixed 30+	2位	#35	Kiyotake Ishikawa ・ Daiki Naito	銀 2個
銅メダル (全2個) — 保護者					
SRSS	Male 30+	3位	#23	Daiki Naito	銅 1個
SRSE	Male 30+	3位	#27	Kiyotake Ishikawa	銅 1個

本件に関するお問い合わせ

ニューヨーク育英学園 広報部 / E-mail: pr@nyikuei.org / Web: www.japaneseschool.org

Japanese Children's Society (JCS) Double Dutch Team 担当: 笠間将平 / 本プレスリリースはPR TIMES 配信予定

